

ほっとタウンほんちょう

ほっとタウン本町

(本町商店街振興組合)

宮城県仙台市青葉区本町

米作り体験(本町ファーム事業)による本町ブランドの高揚



取組の背景

既存事業の見直しと再構築を経て新たな飛躍へ

震災以降、「街を元気にしたい」という思いからさまざまなイベントにも取り組んできたが、多種多様な商店・事業主が商店街を形成していくなかで、新たな「本町らしさ」も描きたい、という意識が高まりつつあった。従来、家具の街として発展してきた本町2丁目には老舗商店も多く軒を並べているが、周辺にはデザイン専門学校や大手予備校が複数所在し、若者向けの感度の高いセレクトショップや魅力ある個店も集まるようになっていた。そこで本町商店街では、その本町スタイルともいべき生活や理念を「本町デザインムーブメント」と名付け情報発信している。これによって各商店

の個性とホスピタリティを再認識し、アート・デザインの魅力を感じる街として住民から認知されるようになってきた。

「本町デザインムーブメント」では、次の5つを目標としている。①個性的で、魅力ある本町のブランディング、②商店街エリアとしての魅力発信、③組合員、非組合員の垣根を越えた地域連携、④異業種間の連携、⑤商店街や地域意識を持つ人材の確保・育成。これらの取組をさらに推進させるためには、既存事業の見直しや再構築が必要と考えた。そこで、2019年に新たな試みとして「本町ファーム事業」をスタートさせ、米どころである宮城県の強みを活かした、農業体験ツアーとオリジナルネーミングのお米の開発・販売に取り組むこととした。

取組の内容

地域間連携の促進と農業体験ツアーの実施

本町ファーム事業は、同じ宮城県内にある仙台の本町と涌谷町、二つの街が相互に波及する地域おこしの取組ができないかを模索するなかで立ち上げた。涌谷町は、2018年に世界農業遺産にも認定された有数の農地「大崎耕土」に位置しており、本町商店街と涌谷町で現地農家と協力した農業体験ツアーを企画することは、宮城県一帯の魅力向上にも資するものである。

事業の主な柱は以下の2点である。

①借り上げ田んぼにて本町ファーム体験ツアーと刈取したお米の収穫祭(販売会)の実施

田植え体験(5月)、夏の草取り体験(8月)、稲の刈取り体験(10月)、収穫祭と収穫したお米「恋する二人」の販売会(10月)を企画・実施した。宮城名産であるお米の生産過程を、大人だけではなく地域の子どもたちにも体験してもらい、生活や食と向き合うことで改めて本町スタイルとは何かを感じてもらえるように努めた。2020年度は新型コロナウイルスの影響を受け、農業体験ツ

アーの実施を見送ったものの、商店街有志による作業風景をSNSで発信。事前予約制の販売会を実施し、本事業の継続をPRした。

②生産したお米のオリジナルネーミング&パッケージ製作事業

街区内にあるデザイン専門学校の協力を得てコンペを開催。学生達に作ってもらった案のなかから実行委員会を選出した。本町商店街と涌谷町が力を合わせて作った涌谷町産「ひとめぼれ」であり、二つの町の絆と、プロジェクトに参加されたお客様と生産者・販売者の縁を恋に見立て「恋する二人」と命名した。



街の未来をになう元気あふれる子供たちの田植え体験の様子

取組の成果

本町ムーブメントによる
新たな商店街ファンの獲得

本事業は、涌谷町との地域間連携を深め、本町商店街と涌谷町のブランド価値向上と情報発信、誘客の強化を図ることが目的である。①農業体験ツアーは年間を通して商店街に関わっていただくためのきっかけ作りとなり、継続的なムーブメントとすることができた。②収穫後の販売会の収益で、経費(生産委託費+収穫祭経費)を賄うことができ、事業を独立採算とすることができた。③またこのような新しい取組を通じて、商店

街全体の今後のイベント企画の方向性を確認することができた。



専門学校の学生たちがデザインした「恋する二人」のパッケージ

実施体制

本町商店街振興組合の理事長、理事、組合員8名が中心となって事業化を進めた。特に、湯浅理事は過去に涌谷町で地域おこし協力隊として活躍していた経緯を持ち、プロジェクトリーダーとして涌谷町役場・現地農家との交渉にあたった。また、製品の

パッケージ制作にあたっては、域内にある専門学校デジタルアーツ仙台デザイン科の学生にも協力してもらい、幅広い世代の意見を積極的に取り入れた。一方の涌谷町からも、まちづくり推進課や農林振興課等の涌谷町役場の方々、町民の方々の協力を得て、二つの街の協力体制は強化された。2020年度産米は宮城県涌谷町のふるさと納税返礼品にも正式採用された。

キーパーソンからのコメント

本町商店街振興組合と涌谷町を盛りあげたい

当組合では、消費や暮らし、ライフスタイルとサービスの提供を、もう一度見直し、再発見していくことを発信する、「デザインムーブメント」を提言しています。この提言を通じて、多くの方に共感と啓蒙を訴えながら、本町のブランディングを行うことを目指しています。そこから、日本で初めて金が産出された涌谷町と、食の魅力や大切さ、さらに地域の魅力を伝えながら相

互の地域連携を行う、「本町ファーム」という事業が生まれました。田植えから稲刈りまでを消費者の皆様に体験し、また、食していただき、本町と涌谷町をもっと好きになってもらう本事業はまだ3年目に入ったばかりです。皆様のご協力とご理解を賜りながら、二つの魅力ある地域を好きになってもらうことを目指しております。



本町商店街振興組合
理事長 湯澤一也(左)、理事 湯浅輝樹(右)

商店街の概要

本町商店街のある本町2丁目地区は、仙台開府とともに武家屋敷や寺社仏閣が多く配置されたことが街の始まりである。明治期に入ると家具店の集積が見られ、徐々に商店街として栄えるようになった。1993年9月、地域の産業振興を企図して商店会組織を法人化。中心市街地にありながら落ち着いた環境で賃料も手頃なことから、セレクトショップや小規模オフィスの開業需要は高い。近隣には専門学校や大手予備校が複数あるため若者の往来も多く、一方近年は街で働く人達を支えたいという熱意ある飲食店にも勢いがある。多様な人が行き交う魅力的なスポットになっている。

所在地 宮城県仙台市青葉区本町
人口 約31万人(仙台市青葉区)
電話 022-221-4141
FAX 022-221-4182

URL <http://www.s-honcho.com/index.html>
会員数 46名
店舗数 46店舗(小売業9店、飲食業9店、サービス業15店、不動産業6店、その他7店)

商店街の類型 単独型
主な客層 サラリーマン、学生・若者
/20歳代、40歳代